

2014年 年頭ご挨拶

日本製薬工業協会 会長 手代木 功

新年あけましておめでとうございます。
2014年の年頭にあたりご挨拶申し上げます。

現在、世界の景気は全体として緩やかな持ち直し基調にあるものの、いまだ本格的な回復・拡大には至っておらず、先進国・新興国ともにそれぞれの国家課題を踏まえた経済・財政政策を模索している状態です。

そんな中、日本においてはアベノミクスと呼ばれる一連の経済政策効果もあって、失われた20年と揶揄されてきた長期にわたる低成長・経済停滞は、2012年末を底に回復傾向へと転じ、今まさに景気浮揚ステージに入っております。また昨年は、安倍首相自らのトップセールス外交、TPP交渉への参加、2020年五輪の東京開催決定など、グローバル化に向けたインパクトの強い施策が実現し、世界各国からも経済の牽引役として注目と期待を集めた1年でもありました。

2013年6月、具体的な成長戦略として「日本再興戦略 JAPAN is BACK」が策定されました。その中の戦略市場創造プランでは、世界やわが国が直面している社会課題のうち、日本が国際的に強みを持ち、グローバル市場の成長が期待でき、一定の戦略分野が見込めるテーマの1つとして「国民の健康寿命の延伸」が掲げられています。また、8月には安倍首相を本部長とする「健康・医療戦略推進本部」が設置され、健康医療分野におけるイノベーション推進のための環境と体制が整備されつつあります。さらに10月に発表された「民間投資活性化等のための税制改正大綱」では、研究開発税制の拡充が明記されています。

これら一連の産業政策からも、政府が医薬品をはじめとしたライフサイエンス分野のイノベーションを非常に重要視していることは明白です。われわれは、これらの取り組みを活用し、より効率的に新薬を創出し続けることで、政府および日本国民全体、ひいては世界で新薬を待ち望む人々の期待に応えていかなければなりません。新年を迎えた今、製薬産業こそが、これからの日本の成長シナリオを描きリー



ドしていく基幹産業であると、気持ちをいっそう引き締めて、諸課題の解決に取り組んでいく所存です。

さて、本年も製薬協の取り組むべき課題は非常に多岐にわたりますが、特に注力することは、「コンプライアンスの徹底と企業活動の透明性の向上」、「イノベーションの促進による医療の質の向上・経済発展への貢献」、「国際連携の推進とグローバルヘルス改善への取り組み」、「積極的な情報発信とステークホルダーとの相互理解の推進」の4点です。これらの課題に、会員各社と各委員会・事務局が一体となって取り組んでいくことが、「革新的で有用性の高い医薬品の開発と製薬産業の健全な発展を通して、日本および世界の人々の健康と福祉の向上に貢献すること」の達成につながるものと信じています。

本年も製薬業界にとって価値ある1年とするべく全力を尽くしてまいりますので、製薬協に対するいっそうのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。